

第3種郵便物認可



会員ら約150人が参加した創立30周年記念式典＝25日午後、宇都宮市内

地域経済のけん引役に

県産業協議会が30周年

宇都宮

県産業協議会（新井祥夫会長）は25日、宇都宮市内のホテルで創立30周年記念式典と全体例会を開いた。式典には約150人が参加し、30年の歩みを振り返るとともに会員企業の発展を誓った。

高橋和夫副会長が「私ども産業界が地域

経済のけん引役となるよう、さらに充実した会にしていきたい」とあいさつ。藤沢智理事も「世代交代は進んでいるが、精神を受け継ぎつつ自己研さんの場として活用いただきたい」と話した。

同協議会は、中堅企業の育成や上場企業の

創出などを目的に1981年5月に発足。現在会員は110人で、例会のほか次代経営者セミナーなどを開催している。

式典では、会の発展に貢献した栗原義彦元会長、藤井清名誉会長、PJP研究所客員長、PJP研究所客員

の岩井虔氏に感謝状を

贈呈。評論家の金美齡氏が「日本再生への提言 次世代に伝えたい 美しい日本の心」と題して講演した。

21回目となる県イメージアップ貢献賞の授賞式も行った。受賞者は次の通り。

- ▽産業経済部門 パン・アキモト、県本場結城
- 細織物協同組合、村田発條▽芸術文化部 関山美穂、栃木工業高、栃木女子高▽スポーツ部門 大塚忠胤、沢村拓一、萩野公介、広田恵乃